



ヤマハ株式会社
第191期 中間業績のご報告

平成26年4月1日～平成26年9月30日

証券コード：7951



環境に優しい
バイオマス由来樹脂を楽器に採用
ヤマハ ソプラノリコーダー

学校普及モデルが
30年ぶりのモデルチェンジ
ヤマハ ピアニカ®



株主の皆さまへ

Top message



株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社グループの第191期中間期（平成26年4月1日から平成26年9月30日まで）の連結業績の概況についてご報告申し上げます。

当中間期の連結売上高は、電子部品事業が振るわなかったものの、楽器事業、音響機器事業で売上げを伸ばし、2,063億91百万円（前年同期比4.4%増加）となりました。営業利益は150億84百万円（前年同期比10.3%増加）、経常利益は150億60百万円（前年同期比11.8%増加）となり、四半期純利益は107億89百万円（前年同期には有価証券の売却益などの計上があったことから、前年同期比13.7%減少）となりました。

中間配当につきましては、10月31日開催の取締役会において1株につき13円50銭とすることを決定いたしました。

当下期におきましても、新興国や国内の経済動向の不透明感など当社を取り巻く経営環境は予断を許さないものがありますが、当社グループは、引き続き中期経営計画「Yamaha Management Plan 2016」の実現に向け、2年目の施策を着実に実施し、持続的な「成長の実現」、成長を支える「収益力の強化」、付加価値を生み出す「専門性の向上」に取り組んでまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成26年12月
代表取締役社長

中田卓也

中期経営計画「Yamaha Management Plan 2016」重点施策の状況

■ 中国・新興国での成長加速

中国の楽器市場は回復傾向にありますが、業務用音響機器は、政府節約令等の影響で、需要が減少しています。このような環境下において、売上げ成長実現のため、販売網再編や販売体制強化を進めています。その他の新興国は、国、地域における跋行性はあるものの、全体としては経済状況が厳しく、

消費動向が低調に推移しています。これらの地域においても、改めて販売、マーケティングスタッフの増強などにより、販売網の拡充に取り組んでいます。また、中国、新興国向けに電子鍵盤楽器の専用モデルをそれぞれ市場投入しており、市場への訴求を更に進めることで拡売を目指しています。

■ エレクトロニクス事業領域での売上げ拡大

電子鍵盤楽器、情報通信機器の販売は、新商品効果もあり堅調に推移しているものの、業務用音響機器の販売が計画よりも低調となっています。業務用音響機器は、新商品のデジタルミキサー QLシリーズの市場導入を各地域で進めており、下期に向けて販売増を見込んでいます。商業空間向け音響市場への参入においては、販売網構築を進めて

います。特に欧州では先行して販売網構築が進み、販売が軌道に乗り始めていますが、他地域でも新規販売チャネルの更なる開拓を推し進めています。さらに、新プロジェクトにより、アセアン地域での設備音響ビジネスの成長を実現すべく体制強化を進めています。

■ コスト競争力強化

海外労務費の上昇が継続しているものの、調達コストダウン、生産性向上及び生産構造改革の効果により、ネットでのコスト

ダウンは計画どおり進捗しています。今後とも引き続きコスト競争力強化の達成を目指します。

■ 新規の事業開発

先期にM&Aにより完全子会社化したラインシックス社、レボラブズ社との間で人材交流を進めるなど、シナジー効果

創出を図る活動を開始いたしました。また、更なる新規事業創出のための活動を推進しています。

第191期(平成27年3月期)通期連結業績の見通しについて

第191期通期連結業績の見通しは、売上高4,300億円、営業利益290億円、経常利益280億円、当期純利益190億円としています。当期純利益につきましては、半導体生産子会社の譲渡に関する基本合意の締結に伴い見込ま

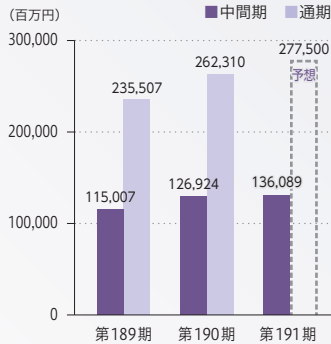
れる18億円の構造改革費用を特別損失として織り込んだことなどにより、前期比で減少としています。

また、業績予想における当下期の想定為替レートは、対USドル105円、対ユーロ135円としています。

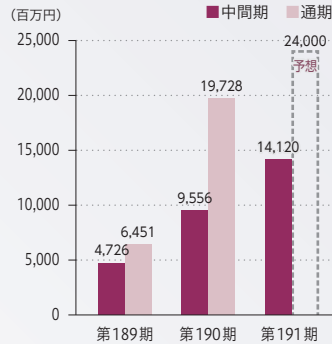
楽器事業

- ピアノ： 消費税引き上げによる影響等により国内販売低調も、北米、中国で売上げ伸長
- 電子楽器： デジタルピアノ、10年ぶりに新商品を導入したエレクトーンが売上げ好調
- 管弦打楽器： 北米での販売好調

売上高



営業利益



▲ アコースティックギター「LLシリーズ」LL36ARE

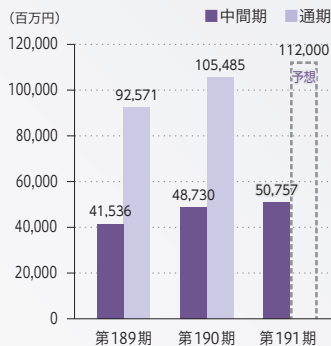
◀ グランドピアノ「CXシリーズ」C3X



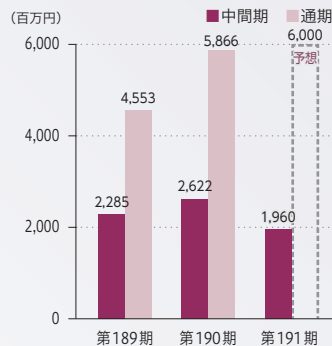
音響機器事業

- オーディオ機器： 国内外の市場で販売苦戦
- 業務用音響機器： 新商品の導入により欧州での販売が堅調に推移
- ICT(情報通信) 機器： 売上げが伸長

売上高



営業利益



▲ デジタルミキシングコンソール「QLシリーズ」QL5

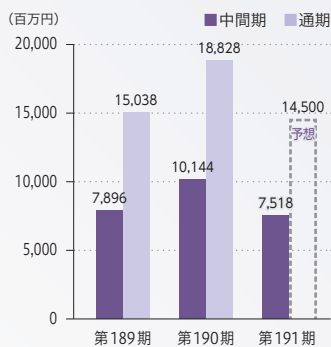


▲ Relit ライティングオーディオシステム LSX-170

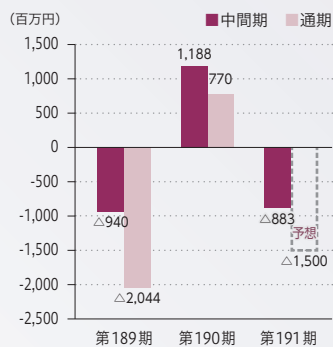
電子部品事業

- 半導体： アミューズメント市場の回復遅延、スマートフォン向け地磁気センサー（電子コンパス）、音声処理用コーデックの販売低迷による売上げ減少と損益の悪化

売上高



営業利益

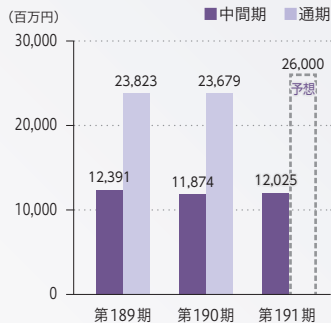


◀ 音源LSI NSX-1

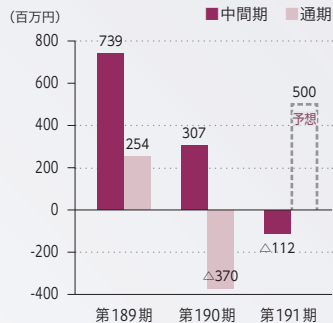
その他の事業

- 自動車用内装部品： 若干の減収
- FA 機器： 新商品効果により増収
- ゴルフ用品： 新商品の販売が好調に推移
- リゾート事業： 天候不順の影響等により減収

売上高



営業利益



inpres RMX 02 ▶

▲ inpres RMX TOURMODEL PB

四半期連結貸借対照表(要旨)

当第2四半期連結会計期間(平成26年9月30日現在) (単位:百万円)

		当第2四半期末	前期末
資産の部	流動資産	243,770	214,487
	固定資産	245,572	224,445
	有形固定資産	111,933	109,984
	無形固定資産	15,861	3,307
	投資その他の資産	117,777	111,154
資産合計		489,343	438,932
負債の部	流動負債	90,319	73,145
	固定負債	96,991	90,944
	負債合計	187,310	164,089
純資産の部	株主資本	239,572	233,222
	その他の包括利益累計額	59,003	38,459
	少数株主持分	3,457	3,161
	純資産合計	302,033	274,843
負債純資産合計		489,343	438,932

- 資産は、たな卸資産、現金及び預金等並びにのれんの増加や保有有価証券の時価上昇に伴う投資有価証券の増加等により、504億10百万円の増加
- 負債は、短期借入金及び長期繰延税金負債等により232億20百万円の増加

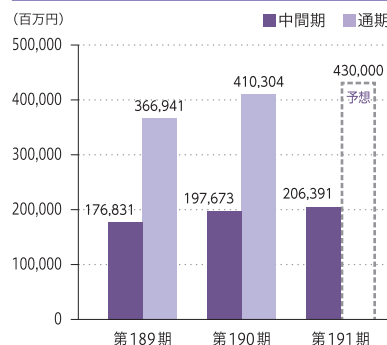
四半期連結損益計算書(要旨)

当第2四半期連結累計期間(平成26年4月1日から平成26年9月30日まで) (単位:百万円)

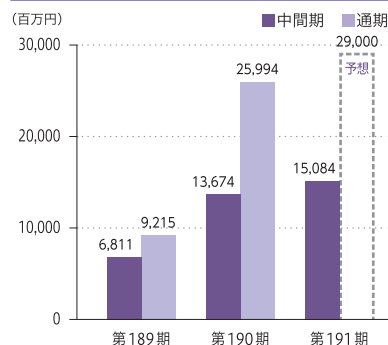
	当第2四半期累計	前第2四半期累計
売上高	206,391	197,673
売上総利益	78,571	72,436
営業利益	15,084	13,674
経常利益	15,060	13,474
税金等調整前四半期純利益	14,794	14,387
四半期純利益	10,789	12,506

- 楽器事業、音響機器事業の増収と為替の円安影響により、売上高が対前年同期比87億17百万円の増収、営業利益は14億9百万円の増益
- 四半期純利益は、前年同期に有価証券売却益等の計上があったことにより対前年同期比17億16百万円の減益

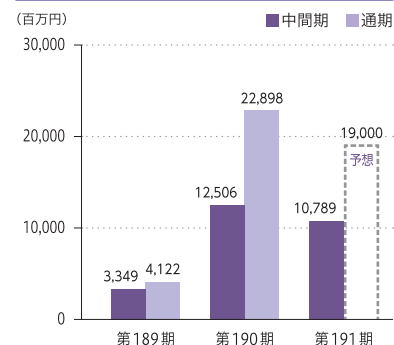
売上高



営業利益



当期純利益



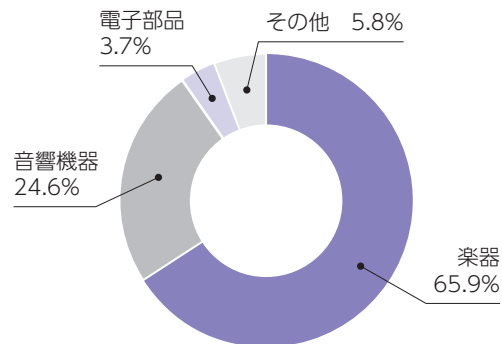
四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

当第2四半期連結累計期間(平成26年4月1日から平成26年9月30日まで) (単位:百万円)

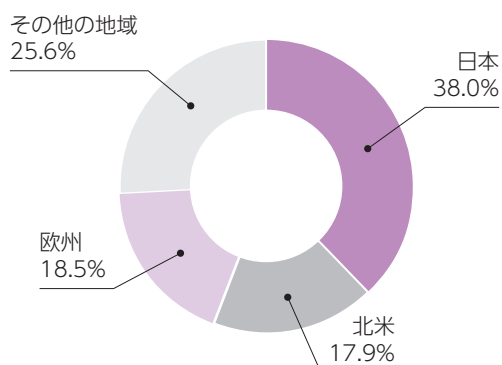
	当第2四半期累計	前第2四半期累計
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,511	4,301
投資活動によるキャッシュ・フロー	△7,139	△2,505
財務活動によるキャッシュ・フロー	8,261	8,555
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,765	841
現金及び現金同等物の増加額	9,398	11,192
現金及び現金同等物の期首残高	57,524	49,464
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	950	231
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	△8	△12
現金及び現金同等物の四半期末残高	67,864	60,876

●営業活動によるキャッシュ・フローが65億11百万円となったことなどにより、キャッシュ・フローの合計(現金及び現金同等物の増加額)は93億98百万円

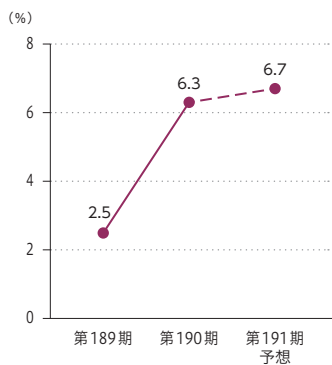
事業別売上高構成比率



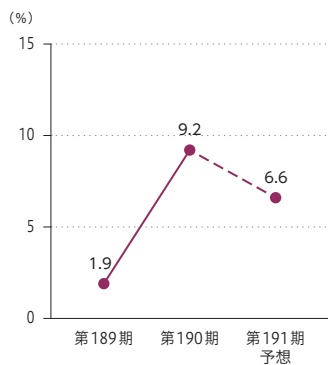
地域別売上高構成比率



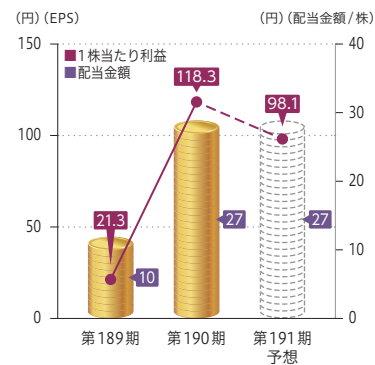
売上高営業利益率(ROS)



自己資本利益率(ROE)



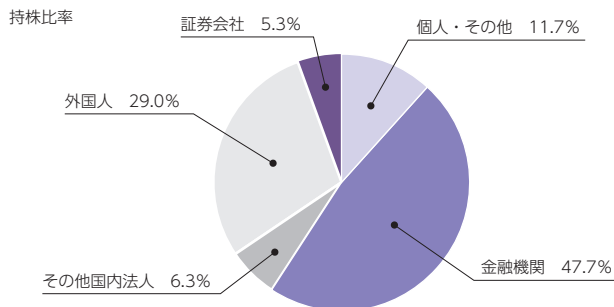
1株当たり利益(EPS)/年間配当



株式の状況 (平成26年9月30日現在)

発行可能株式総数 700,000,000株
発行済株式の総数 193,625,150株 (自己株式3,629,875株を除く。)
株主数 22,472名

所有者別状況



(注)「個人・その他」には自己株式が含まれております。

大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	15,402	7.95
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	13,063	6.75
ヤマハ発動機株式会社	10,326	5.33
株式会社みずほ銀行	8,555	4.42
株式会社静岡銀行	8,349	4.31
三井住友海上火災保険株式会社	8,008	4.14
住友生命保険相互会社	7,300	3.77
日本生命保険相互会社	5,567	2.88
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー 505223	4,763	2.46
BNPパリバ証券株式会社	3,506	1.81

(注)当社は、自己株式3,629,875株を保有しておりますが、上記大株主から除いております。
また、持株比率は持株数を自己株式を除いた発行済株式の総数で除しております。

ヤマハ株式会社

〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町10番1号
Tel: 053(460)2800 Fax: 053(460)2802
URL: <http://jp.yamaha.com/>

役員 (平成26年9月30日現在)

取締役	代表取締役社長	中田 卓也
	取締役 (常務執行役員)	高橋 源樹
	取締役 (上席執行役員)	近藤 昌夫
	取締役 (上席執行役員)	大池 真人
	取締役 (社外取締役)	喜多村 晴雄
	取締役 (社外取締役)	柳 弘之
	取締役 (社外取締役)	太田 義勝

監査役	常勤監査役	梅田 史生
	常勤監査役	細井 正人
	監査役 (社外監査役)	宮澤 孝司
	監査役 (社外監査役)	池田 裕彦

株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会の基準日 3月31日
定時株主総会 6月
期末配当の基準日 3月31日
中間配当の基準日 9月30日
単元株式数 100株

公告の方法 電子公告
<http://jp.yamaha.com/>

株主名簿管理人 三井住友信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関

同事務取扱場所 〒460-8685 名古屋市中区栄三丁目15番33号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

株式事務のお問い合わせ先 株式事務の内容により、証券会社または三井住友信託銀行株式会社にお問い合わせください。

株式事務の内容	①住所変更 ②配当金受取方法の変更 ③単元未満株式の買取請求	未払い配当金の支払い
口座を開設されている場合	口座を開設された証券会社	三井住友信託銀行株式会社
株式が特別口座にある場合	三井住友信託銀行株式会社	三井住友信託銀行株式会社

●三井住友信託銀行株式会社のお問い合わせ先

0120-782-031 (フリーダイヤル) 平日9:00-17:00



この「中間業績のご報告」は無塩素紙に植物油インキで印刷しました。